

発刊にあたって

この特集号は安井廣迪会員の御熱心なプロモーションと、渡辺晋会員らのなみなみならぬ御努力の結果
出来上がったものである。

「温故」とは正しくこの特集号にこそ相応しい。座談会のゲストといい聞き手といい、今となっては空
き巨峰を仰ぐ想いで、それぞれが目もくらむ珠玉の名作である。

今これを再び目に出来ることは、まことに得がたき幸せであり、わが「医家芸術」の偉大さを「知新」
するよすがにもなる。

会員諸兄はもちろんのこと会員以外の方々にも広く読んで頂きたいと思つ次第である。

日本医家芸術クラブ委員長 太田 怜

二〇〇五年七月吉日

懐かしの座談会

渡辺 晋

座談は討論とは異なり、形式張らない「その場だけの話し合い」といったニエアンスもありますが、対談や三人による鼎談なども含めて、文明の基盤をなしてきたように思われます。

文字や活字のないころにも、お喋りによる意志の伝達、会話や座談は、人類の進歩に大きな貢献をしたに違いありませんし、それが座談会の形に集約され、さらに活字化されますと、隨筆や評論とは別の、魅力あるジャンルを形作るようです。じつのところ私は、座談会の記録を読むのが好きでした。

日本医家芸術クラブの機関誌『医家芸術』は、昭和三年（一九五七年）九月に創刊され、昨年（二〇〇四年）の十二月に通巻五六二号を発刊しましたが、しばしば座談会を開いておりました。

このクラブでは、一般的な同好会の会長に相当する役を、委員長と呼んでいますが、この間、七人の先生が委員長として、それぞれ特色ある運営をしてこられました。

初代委員長の式場隆三郎先生は、ゴッホ研究者としても世界的に有名ですが、一〇〇号までの在任中に、九八回も座談会を載せておられます。このうちの六六回は先生の対談で、一連と思えるものも

混在していましたが、ちょうど区切りがよいので、以下、一〇〇冊分つづ纏めて眺めてみましょう。

通巻一〇一号は昭和四一年一月号で、二〇〇号は四九年四月号に相当します。この期間中、座談会は九五回開かれており、内容や出席者数など、初期を凌いでいました。司会者や文責者は大変でしょうが、対談より多数人による座談のほうが重厚でなし、掲載された座談会は、それ自体が一つの作品とも考えられますので、「九五編の座談会が載っていた」と表現してよいかもしれません。

この手でゆきますと、二〇一号から三〇〇号（昭和五七年八月号）までの座談会は、七五編ということになります。そのあと四〇〇号が出るまでのあいだに改元が行われますが、この間の座談会は三〇編と減少しています。数字の羅列が続いて恐縮ですが、そのあたりを、もう少し詳しく調べておきましょう。

昭和天皇が崩御されたのは一九八九年一月七日でしたが、この一月号（通巻二七七号）はまだ昭和六四年一月号と表示してありますので、ひとまず、ここまでは昭和として座談会の数を調べますと、三〇一号以降は二五編でした。創刊号からの合計は、二九三編になります。

平成になってからの座談会は、ぐっと減少しています。通巻四〇一号は、平成三年の一月号ですが、五〇〇号までが八編で、五二二号から二二世紀に入りますが、ともあれ五〇一号以降、本格的な座談会は載っておりません。

もっとも、いろんな合評会などは開かれていますし、他の企画が

増えたといったふうな、多くの要素が絡んでいますから、いちがいに『医家芸術』の活力が低下したとは言いませんが、座談会ファンとしては、いささか寂しい気がするのも事実でしょう。

そこで、座談会の最盛期だったと思える昭和四〇年代を振り返ってみますと、まず四一年に、日本のGNPはフランスを抜き、四二年はイギリスを、四三年には西ドイツを抜いて世界第三位になりました。大型消費時代の到来です。翌四四年、アメリカのアポロ一七号が月面に到着し、四五年には大阪で万国博覧会が開催されました。四六年には、脱サラが流行りだし、四七年には、札幌で冬季オリンピックが開催され、通産相が「日本列島改造論」を書いて首相になるなど、昭和四八年の石油ショックまで、景気のいい話ばかりが続いておられます。なにかと話題にこと欠かない時代だったわけですが昭和四一年の日本医家芸術クラブ規約をみますと、次のような部門が記してありました。

まず芸術部門では、美術、文芸、短歌、俳句、邦楽、洋楽、書道、写真、映画、演劇、奇術、茶道、華道、盆栽、水石、造園、庭園など、まことに多岐です。次にリクリエーション部門として、囲碁、将棋、麻雀、つり、ダンス、ボーリング、ゴルフ、旅行、自動車などがあります。まさに昭和元祿、百花繚乱と言えましよう。

これらの中には、さほどの活動を伴わなかった部もありますし、座談会がすべてを網羅したわけでもありません。しかし、これらに加えて、医学に直接あるいは間接的に関係あるテーマはもとより、女性・母性・女医に関するものとか、地方の特性に焦点を絞ったも

のなど、座談会のテーマは多岐にわたっておりです。それで読み返すたびに、これだけの仕事をされた先輩に対して、おのずと尊敬の念が湧いてくるのです。

じつささい、今回の企画の背景には、先人が残して下さった魅力ある遺産を埋没させぬよう、僕がでも復讐して往時を偲び、より多くの人々に知って頂き、次の発展段階への活力の基にしたいという想いがありました。熱心な呼びかけをされたのは、安井廣進先生（文芸）で、太田俊委員長や初芝海雄副委員長、山田新太郎監事のお計らい、矢数圭章書道顧問委員、藤倉一郎文芸部委員、白矢静一美術部委員、二宮文乃先生（書道）らのご尽力が加わって、ここに実現したのでです。

復刊版の刊行にさいしては、法的な事項や経費の問題など、いろいろご苦勞が多かったことと拝察しますが、戦後六〇年の節目を迎えたいま、いろんな意味で過去を振り返るのは大切なことに違いありません。

こうして、一八編の座談会が選ばれたのですが、期せずして昭和四〇年代を中心としたものになっていました。将来は座談会の記録もIT技術を使った感覚的な、ペーパーレスの時代が来るかもしれないませんが、活字文化には、読者自身の想像力を喚起するという利点もあります。どうぞ「読む座談会」をお楽しみ下さい。

なお、収録した座談会の本文中の一部に、現在からみれば不適切と思われる表現がありますが、当時の状況を伝えるため初出原文のままとしました。ご了承頂ければ幸いです。

医家芸術

臨時増大号

アンコール座談会特集号

目次

(昭和四四年五月) 父(鵬外、李太郎、茂吉)を語る	森 類 斎藤 茂太 河合 正一	(59)
(昭和四四年七月) 芸術の病理―バトグラフィのめざすもの―	野村 章恒 春原 千秋 加賀 乙彦 椿 八郎	(76)
(昭和四五年七月) 『解体新書』にいたる道―日本医学の進歩の跡を顧みる―(1)	小川 鼎三 緒方 富雄 内山 孝一 大島蘭三郎 矢数 道明 原 三郎 椿 八郎	(94)
(昭和四六年三月) 幻覚薬をめぐって	原 三郎 松井 好夫 徳田 良仁 小林 司 植草 甚一 椿 八郎	(105)
(昭和四七年三月) 夢を考える	時実 利彦 塚田 裕三 星 新一 原 三郎 椿 八郎	(121)

懐かしの座談会	木瓜の花(昭和三四年五月号) 山下 清	(2)
(昭和三二年九月) あなたは痛を避けられるか	波辺 晋(日本医家芸術クラブ・文芸部)	(12)
(昭和三三年五月) 推理小説をめぐって(20)	塩田 広重 田崎 勇三 土岐 善磨 中村 研一 武原 はん 式場隆三郎	(30)
(昭和三四年六月) 世界の文学者について	江戸川乱歩 式場隆三郎	(37)
(昭和三七年一月) シュヴァイツァー博士とともに	加藤 周一 式場隆三郎 岡山 巖	(46)
(昭和四二年一月) 映画『白い巨塔』をめぐって	高橋 功 式場隆三郎	(57)
	山本 隆夫 所賀 尚雄 高橋 胤文 椿 八郎 原 三郎 林 融 岡野 英規	(67)

目次

〔昭和四七年五月〕日本の歯科の歴史を語る

山田 平太 今田 見信 内田 安信
本間 邦則 原 三郎

(131)

〔昭和四七年八月〕美術談話

木下秀一郎 サイタ 亨 永井 功
佐藤 摩 金成 桂一 黒坂智恵子
徳植 清祐 伊藤 行男

(144)

〔昭和四九年四月〕「医家芸術」の過去・現在・未来

武見 太郎 東 龍太郎 原 三郎
椿 八郎

(154)

〔昭和五〇年一月〕われらの短歌と俳句

鈴木 正夫 熊谷美津子 小野 慶三
田村 一 雨宮 虹月 椎津 虚彦
椿 八郎 原 三郎

(166)

〔昭和五二年三月〕女医の喜び 哀しみ

齋藤 歌子 熊谷優利枝 金井 美津
牧野 順 清美 明子 椿 八郎

(174)

〔昭和五三年一月〕邦楽さまさま

加瀬 恭治 山本 秀雄 及川富美子
菅 邦夫 原 三郎

(185)

〔昭和五六年一月〕渡辺淳一氏を囲んで―女性について―

渡辺 淳一 高橋 有恒 森迫 健一
石川 恭子 山田 遼

(209)

〔昭和五七年三月〕洋楽よもやま話

編集後記

◆協賛広告会社一覧

アルフレツサ	(表2)	小太郎漢方	(93)
持田製薬・味の素	(8)	ツムラ漢方	(25)
キッセイ薬品工業	(9)	アステラス	(26)
参天製薬	(10)	シェリング・ブラウ	(27)
オースギ	(11)	学校法人 後藤学園	(28)
IPS製薬	(90)	白矢眼科医院・クラブ案内	(29)
千寿・武田・杏林	(91)	橋本天海堂	(30)
協和・杏林	(92)	藤倉病院・岡町病院	(31)
		カネボウ	(表4)

医家芸術

臨時増大号



あなたは癌を 避けられるか

日本医科大学
 (癌研究所所長) 塩田 広重
 (癌研究会会長) 田崎 勇三
 (癌研究会会長) 土岐 善麿
 (癌研究会会長) 中村 研一
 (癌研究会会長) 武原 はん
 (癌研究会会長) 式場 隆三郎
 赤坂・ざくろにて

有病長生法



式場 こんど医家芸術クラブの機関誌を九月から創刊することになって、そのよびものに毎号対談か座談をのせたい。第一回は田崎先生と相談の上、このような願ふれになりました。きまつたテーマもありませんので、気がするにお話しねがいます。

中村 そういうわけか。いつやらね、だれかの代理でというので、こんどもさうかと悲願してきたのだが……

式場 ひがまないで下さい。初めから中村、土岐両先生をたのみたかったのだ……

塩田 医者だけではなく、他の知の人も御一緒の方がいい。

田崎 それにたつた雑誌だけの問題じゃないわけでしょう。日本医家芸術クラブという大きな組織ができたわけです。そこで元氣龍刺たる機関誌を出す必要がある。

式場 女の方もぜひひとりいので、白羽の矢は武原さんにむけられました。

武原 おそれいます。塩田先生、わたし武原です。この前にいつでしたか、どっかでお目にかかりました。

中村 武原さんは、お医者さんには縁がないんでしよう。



式場 どういたしまして、持病がありますわ。チヌトマがいるんです。肝臓へ入っているというのです。

土岐 しかし、人間はどこか悪いところがある方が用心するからよいようですよ。つねに健康に注意しますからね。

中村 ぼくは、痔が悪くてフランスでひどい目にあったんですよ。外科の先生が診てくれたが、インターンが「先生切っちゃいませう」というんです。ところがその先生は「いや一つくらい悪いところを残しておくもんだよ、そうすれば酒なんか飲まなくなるから……」という。えらい先生になると、あんがい一つだけ残してくれたりし

てね。

式場 みかけの丈夫な人は弱い。ちよつと見て弱わそうなが、長生きしたりしてね。

塩田 そのようですな。丈夫な人は力に委せて愉快に暮すけれども、早くなくなる、ころりつと。

式場 戦後に尾崎行雄さんが血圧が高いのにアメリカに行くといつてきかないので、家族の人がぼくに診てとめてくれとたのまれたことがある。みると、なるほど血圧が高い。しかし腹せてはいるが全体にしっかりしていて、他には悪いところはない。尾崎さんは日本の社会が不快だから血圧がさがらない。アメリカへいったらさつときが来る。だから君は渡米を阻止しちゃいかん、といわれた。

田崎 ところで塩田先生は、何かスポーツをおやりになりますか。

塩田 いや、何もやらない。ぼくは特別にスポーツはやらないけど、外科は朝から晩まで立っているからね。それでよくお掛けなさいと椅子をすすめられるが、掛けるより立っているほうがいいのだから……

土岐 それはえらいことでしょう、年をとると大事をとる。子供のときわりあい弱い人



が長く生きる、気をつけるからだね。

中村 要するに脚に風という生き方だね。

式場 基礎医学の先生と、臨床の先生とどっちが長生きするでしょう。

塩田 どうでしょうか、みんな死んじやったなあ。

式場 臨床の先生はおそくまで患者を診ている。基礎は講義する人は六十ぐらいでやめている。ところが臨床の先生はもつと活躍しているから長生きするのじゃないか。

塩田 それは、あるでしょう。

式場 日本の外科の先生で塩田先生が一番

をとっていらつしやるんじゃないですか。

塩田 もう一人ありますよ、佐藤達次郎さん式場 先生は診察されておられませんでしょう

癌の話

塩田 実は夕べも癌の話をしてもらったのだがね。一人物でやっぱり上手な人があってえらいものを見つけた。

田崎 胃痛ですか。

塩田 ああ。こんな小さいものでしたが、開けて取ってみたらやっぱりそうだった。皮膚科の看護婦が「どうも胃が痛い胃が痛い」というので、ほかの大学に行つて見てもらった。ところが大したことはないというのだ。けれどもおかしいというので、今のいろいろなものを調べて熱心な専門家に見てもらったら、これはこのくらいのものできものができているというわけで、手術してもらった。ところがそれが癌であったということですね。そのくらいに早く見つければ、いいだろうけれどもね。君のところの患者には、何センチぐらいのなんているのはあるかね。

田崎 ところがあるのですよ。戦争前ですけれども大臣を何回もやった人で、有名な人

で、今現存している人ですけれども、たしか今年七十三か四ですよ。非常に健康な

んで、それで長生きするだろうと主治医がいつているわけです。「あなたは血圧もちょうどいいし、心臓もいいし、丈夫だけれども、まあ年をとっているから癌が一番来るなら来るでしょう。死ぬなら癌で死ぬでしょう。日本人には胃痛が多いから胃でしよう」といわれて心配になってあつちこつち二つか三つぐらいの大病院に行つて健康診断してもらった。ところが何でもない。そこである人の紹介を私のところに持つて来たのですが、それは先生のおっしゃる通りに小さいのがあるのです



るわけですね。

田崎 どうも具合が悪いですね。

塩田 ああいうことになっては具合が悪いね。胃痛ではないのを、胃をみんな取ってしまったのだから。そしてその写真を見せないのですよ。それは具合が悪い。

田崎 その先生がどこか他所の病院にいつて手術をするときに、レントゲンがその病院で撮つてあるわけです。その病院で撮つたレントゲンを見て、これは「大へん」だといつてしまった。怪しいと思つても、も一度自分でレントゲンを見てやればこん

よ。どうしてもあるのですね。それで「腫瘍があるから入院して手術された方がいいでしょう」といつたのですね。そしてその人はすぐ入院しようということになったのです。ところがその主治医とか周りの人にもう一度相談しないこととちよつと僕のところにいけないということ、まあ医者としての義とかいろいろなことがあるもので、その人が気を使われたのです。それでもう一回見せようということ、見せたのです。ところがレ線検査をしてみたが、何でもないじゃないかといわれて、何だ田崎のやついろいろなことをいうけれども何でもないと思つたのですね。そのときの言葉が「森山鳴動してねずみ一匹も出ないじゃないか」といわれたのですね。ところがその奥さんや子供さんは非常に心配されて僕のところに来られたのですよ。「これはやらなければいけない。今ならいけれども、手付くれになつてはいかんと私は思う」といつたら、やっぱり奥さんが奨めて、私の病院に入院されて、手術をしました。手術後二週間で退院されましたけれども、やはり四センチぐらいのものがあつたのです。普通の触診ではどうしても腫瘍が触れないのです

なことはないならなかつたのでしようが、X線を見ないで前に撮つた写真だけでこれは大へんだといつたのですね。

武原 運が悪いのですね。

塩田 運が悪いですよ。非常に運が悪い。田崎 その人は癌ではなかつたからもう七年も生きておられますけれども、衰弱しているそうですね。

「たばこ」と肺癌

土岐 癌の話ですがね、このごろ肺病々々といひましよう。あの肺病と「たばこ」との関係をよく言うけれども、私は心配しないのですかね。やっぱり心配した方が、いいのですか。

田崎 少しは心配した方がいいでしょう。全部信用することも、どうですかね。

日本では女の人の肺病は少ない。私のところで最近七年間に五十六人ぐらいの肺病痛の入院患者を調べてみたのですが、それによりますと、大体男と女の比が四対一です。私どもの病院の入院患者ですから日本の全体の統計とは少し違つていますが、四対一。それでその人たちが男も女もたばこのみ、しかも相当紙巻たばこを吸うへび

ね。開腹してみますと、漿液膜の方、即ち胃の外にはまだ抜けていない。ただ一つの淋巴腺にも飛び火していません。全然胃の外がきれいなんです。それで完全な根治手術ができて今は非常にお丈夫になられました。つまり非常な早期ですが、それは偶然で、運命なんです。運がよかつたんです。自覚症状が全然ない時期なのですからね。

塩田 それと別の話を僕は読んだよ。君も読んだかもしれないけれどもね。病人があつて医者のところに行つた。そしてはあからそこへ往診に来る医者がおつて、「あなたには胃痛だから、すぐ手術をしない」といつているですね。別に苦しくもないのにすぐするといつてもそんなことはできぬ。家へ帰つて相談してやる。しかしあれだけやかましくいふのだからやっぱりやつてもらつた方がよからうといふことで、入院して、そしてその晩に手術してもらつた。そして胃をみんなとつたというのですね。

田崎 読みましたよ。

塩田 読みましたか、それが問題になつておつて、今年七つたつているというのだね。訴えも何もしないけれども、小言をいうてお



スモーカーが多いですね。統計上はそうですけれども、しかし必ずしも「たばこ」だけであるというような簡単なものではないのです。アメリカでやっているのは、肺臓痛増加のカーブと「たばこ」消費量増加のカーブと並行しているというのですよ。根拠は甚だ単純なわけですが。たとえば工業の発達のカールとか、オイルやガソリン消費量のカーブとか、自動車の台数がふえたとか、いろいろなことが並行していると思うのです。それをたばこのカーブとくっつけるからそういう議論が出るので、僕は肺ガンの原因は結局空気の汚染だと思ふのですよ。アメリカでもやっぱり都会に多いのです。農村や空気のきれいなところには、少ない。日本でも最近までは肺癌で死ぬ人は一年間に千百人くらいでしたが、それが今は二千人ですよ。アメリカでは二万二千人、十倍ですね。ところがたばこの吸い方を調べますと、これは専売局で調べたのですが、日本人は成人男女頭割りにすると一年に千二百本から千五百本、アメリカが二千五百本から三千本、イギリスが二千本くらいですかね。ですから日本の紙巻たばこの二倍強ですね。人口の比率にします

と、日本人一人肺癌で死んでいるのに、アメリカでは六人死んでいる勘定になる。そうすると必ずしもたばこだけじゃないというところが考えられるでしょう。たばことしてもアメリカの紙巻たばこの紙が悪い。日本の紙はいい。いわゆる癌を作る原因が少いということも考えられる。それからもう一つは人種の差ということも考えられる。アメリカなどは白色人種で色素が少いから皮膚が白く皮膚癌が非常に多いが日本人は色素が多くて黄いろいから皮膚癌は少い。皮膚癌だけについてはそういうところがあつたのです。いろんなことを考えなければなりませんけれども、たばこだけについては日本の専売公社で最近調べたところだと癌原性物質が即ち癌を作る物質はないそうです。ところが癌研で調べたところではごくわずかあるですね。たばこを非常に高温で吸う場合、七百度以上になると紙の中に含まれているある物質がとけて、それが癌原性物質になるのです。三―四ベンツピレンや一二ベンツアントラセンとかいうものですが、動物実験で発癌作用が証明されております。それは日本の紙巻たばこにも癌原性物質が絶対ないことはない。しかしこ

れはホルダーで吸えば一番いいですよ。温度が低くなりますし、いろいろの悪い物質がひっかかって、通過された比較的キレイな煙を吸うことになりました。

中村 しかしたばこのみには、アレはまずいからね。

田崎 吸ってもいいから、半分で棄てればいい。吸煙みたいな吸い方で、根っこまで吸わないことです。

性欲とタバコ

田崎 僕は性欲とたばこは密接な関係があると思うのです。なぜかという、一四九二年コロンブスがアメリカ大陸から三つの大きな土産をもって旧大陸に帰ったでしょう。梅毒、たばこ、じゅうがいも、この三つをもつて帰った。ところがほとんど半世紀で梅毒というものは全世界を風靡したのです。その次に何が風靡したかという、たばこなんですね。それは半世紀とちよつと、梅毒よりも十年か十五年おくられて日本に来て、それはセスイット豚の借借であるスペインのフランシスコ・ザビエルという使徒がポルトガル船にのって鹿児島に來航したとき、もつてきた、という説があ



る。天文十八年七月で、一五四九年だからコロンブスのアメリカ発見後僅かに五十七年目である。じやがいもは、うんとおくられている。たばこはなぜ性欲と関係があるかという、なめるとか、吸うとか、かむとか、そういう動作は、これは性欲につながるものである。

式場 ところがニコチンそのものは、性欲を抑えるものだね。

田崎 そうです。ところが、唇の周囲とか、舌や口の中とか、脇の下とか、こういふところは性感帯だから、たばこをああいうふ

うに吸うのは、人前でオナニーしているようなわけだ。どうも子供が乳房を吸っている動作と似たもので、そんなわけで大人になっても乳房を吸う人があるらしいけれども、やっぱりそういう性欲と関係があると思われる。それからもう一つは、たばこを吸うことに一つの快感を感じる。優越感、コロンブスが行ったところ、アメリカでは庶民が吸っていたけれど、その前は坊さんが鼻から吸って口からはいていた。アメリカのインディアンのマヤという種族の中の借借が神前の儀式にタバコを吸っていたのが、タバコの起源であります。はたばこがあり、彼らは拜火教で火とか煙というものを非常に崇拜した。初めは、借借しか吸わなかった。土人がみな吸うようになったのは、あとです。欧州に渡ってからも、タバコは初めは借借とか貴族とか外交官のような人がとが吸っていたので、庶民がみな吸うようになったのは後のことでした。だから庶民も貴族になった、あるいは借借になったような高い気持になったのだ、とも考えられるわけですね。

式場 西洋には、女の吸ったたばこというのがないね。あれは日本だけだろう。

中村 それはあるよ。パイプクラブでよくやるのもそうだね。僕はたばこはこがうまいかという、煙だということです。煙を見て思いやる。それが、最終後の吸わないとすぐ消えてしまうたばこを出して非常に評判悪かった。アメリカのたばこが盛んになったのは消えない、煙が出るから。その証拠には、ま夜中に電気がないところでたばこを吸ってもうまいはずがない。

式場 だから盲人は、あまり吸わんというね。盲人で吸うのは、もと眼のあいていた人だというじゃないか。

田崎 そうかね、それは、あなた(中村氏)の説と一致しているね。

中村 カザンバのメモリアルというのを読んだ。カザンバがコンスタンチノープルに行つて、そこを長老に会うのですかね。そして、たばこのことがうまいかと聞くと、たばこの煙がいいといったのですね。それでこの間按摩さんに聞いたら、「そういえば、たばこをのむ按摩はあまりいませせんね」といつていました。

田崎 それも、面白い説だ。

中村 事実、消えるたばこはまずいものはない。

式場 それに、スピードのある乗物、つまり飛行機とか、特急に乗ったときのたばこのまずさは、ないね。やっぱりたばこは、こもったところで静かにのむ方がうまいね。

土岐 たばこの煙の美しさというものは、梅原さんが煙間を描きながらたばこをのんでいる写真がありましたね。あのふつとはいた煙の工合が、実に美しく出ている。たばこの先の灰をとらえた写真頭というものは、えらいものだったね。

田崎 私もあなたと同じように感じました。梅原先生がたばこをくわえて、その先の灰がこんなに長くなっている。いまにも落ちこちそうに曲っている。それをうまくとらえているのですよ。そしてむずかしい顔をして、煙間を描いている。

中村 われわれはよく女房にあふないといわれるのですが、絶対にこの灰は落さずものですね。

式場 川端康成君の写真もそうだったね。いかにも川端君らしく、たばこの煙が静かにあがって、原稿を書いている。

田崎 やはり空気が大切なんですね。

土岐 性欲とたばこの関係というものは、そうするよ……

田崎 私に變化するかということとはほかに何かなければいけない。そういうものにはビールスというものが考えられないことは金もうけしている人があるますから、工合が悪いですね。

土岐 そんなことも、あるのですか。

田崎 ありますよ。一番初めにいい出したのは一九二五年イギリスの学者でジャイという人でした。このジャイという人がいい出したときには、全世界の学者が驚いたのです。それはいい説ですからね。しかし、その説も世界各国でいろいろ研究されましたけれども、人間の痛の原因はビールスらしくないという結論がでて舞ひられたわけですね。

武原 それは、さうですね。

田崎 それについて面白い話があるのです。死んだ人だからいいでしょうが、洪沢さんが、八幡製鉄の社長をしていられるころ肝臓病になって、九州の大学でいろんなことを調べたのです。それで焼ける前に西果糖の病研に連れて、稲田竜吉先生に診てもらったのです。もう九州の調べでは肝臓病に間違いないといわれた。ところが稲田先生は、「梅毒性の肝臓のシコリかもし

らんじやないか。君(私に向って)ワッセルマン調べた方がいいよ」といわれたので。私も先生の行かれたあとで診ましたが痛に間違いない。「君どう思う」と洪沢さんがきかれるので私も「やっぱり梅毒かもしれませぬ」といったのです。そのあとで洪沢さんがいわれるには、「九大で痛という診断がついた。それを稲田先生みたいな大家が君痛じやないよ」と言のもとにはねられて、こんなもの痛じやない、ワッセルマン調べるといわれたのは実にありがたい。たえ自分が痛であっても、なりたいという一線の望みがある。それを梅毒といわれた。そしてその梅毒については必ずしも私には自信がない」と言われるのです。数回外園に行っているし、自信がないから梅毒といわれたことは実に嬉しいというのです。しかも洪沢さんはインテリでしょう。それで「君、梅毒だよ」といわれてよろこばれた。それから稲田先生は「肝臓硬変症もあるかもしれん」といわれたのです。梅毒と西方あるのではないかというわけですが、突然大出血がきて亡くなられ、解剖したところが何と肝臓硬変症もあったのですよ。(さしえ、木下秀一郎)

田崎 脳の中の中核は、時局と口と同じ場所にあるのですよ。

土岐 ところで胃腸の専門家にお聞きするのだが、痛というものは……ビールスだという考え方はないのですか。

田崎 全然ないとはいえませんけれども、ビールスそのものが痛を作るといふ説を信じている人もありますよ。ビールスが少しすけだちをするというふうな考え方は、ありうろと思われましょう。ビールスが痛の原因であるというところは動物実験もあり、四つの種類、鬼のパピロム、それから蛙(レオポルド・フログ)の腎臓病と筋の肉腫それから二十日鼠の乳癌ですね。この四つ

土岐 その四つのは、明らかにビールスが原因になっているのですか。

田崎 ええ、この四つだけです。

中村 死刑を宣告されるのですね。

式場 当人がわかつて、否定した方がいいのですね。

田崎 本当のことを聞いても何も心配ないからいえと費められて、仕方なしにいうた人があるのです。そして、がたっときましたね。自分では薄々知っていたも、まだ癒えると思っている方がいいのです。

田崎 自分には、証拠がない。ただ疑っているだけでしよう。医者には、いろいろ証拠がある。だから医者のはうで、絶対ないという方が強いのです。冗談いふな、痛じやないよ」といわれた方が、千金の重みですね。やっぱり心のたよりになる。

田崎 でも動物実験ではいろいろの化学的物質、痛感性物質が証明されています。つまりこれを用いれば必ず痛になるというものは動物ではたくさんあるのです。それをやると動物は痛になります。人間ではそういう実験はできませんからね。想像されるだけです。しかし、たとえばそういうものがあるにしても、そのほかには第二次的な何かがありはしないか。たとえば人間の体の細胞や細胞群が荒廃した状態になっても、痛というものが増殖するような状態にどうしてなるかということですね。それはミューションと云って細胞の突然変異と説明しておりますが、その突然変異を起す最後の一突きというものはビールスかもしれぬ。これは考えられることです。しかし、まだわかっておりません。それは世界各国の学者が研究していますけれども、その最後の一突きは力は何であるかはわからぬ。前癌状態と云って、たとえば胃腸ならば、慢性胃炎あるいは慢性胃潰瘍とか、ポリープとかいろいろの状態があります。しかしそれだつてそのまま経過して決して痛に悪性変化しないこともあるのです。それなのに、どうしてある場合にだけ痛の細

らんじやないか。君(私に向って)ワッセルマン調べた方がいいよ」といわれたので。私も先生の行かれたあとで診ましたが痛に間違いない。「君どう思う」と洪沢さんがきかれるので私も「やっぱり梅毒かもしれませぬ」といったのです。そのあとで洪沢さんがいわれるには、「九大で痛という診断がついた。それを稲田先生みたいな大家が君痛じやないよ」と言のもとにはねられて、こんなもの痛じやない、ワッセルマン調べるといわれたのは実にありがたい。たえ自分が痛であっても、なりたいという一線の望みがある。それを梅毒といわれた。そしてその梅毒については必ずしも私には自信がない」と言われるのです。数回外園に行っているし、自信がないから梅毒といわれたことは実に嬉しいというのです。しかも洪沢さんはインテリでしょう。それで「君、梅毒だよ」といわれてよろこばれた。それから稲田先生は「肝臓硬変症もあるかもしれん」といわれたのです。梅毒と西方あるのではないかというわけですが、突然大出血がきて亡くなられ、解剖したところが何と肝臓硬変症もあったのですよ。(さしえ、木下秀一郎)

らんじやないか。君(私に向って)ワッセルマン調べた方がいいよ」といわれたので。私も先生の行かれたあとで診ましたが痛に間違いない。「君どう思う」と洪沢さんがきかれるので私も「やっぱり梅毒かもしれませぬ」といったのです。そのあとで洪沢さんがいわれるには、「九大で痛という診断がついた。それを稲田先生みたいな大家が君痛じやないよ」と言のもとにはねられて、こんなもの痛じやない、ワッセルマン調べるといわれたのは実にありがたい。たえ自分が痛であっても、なりたいという一線の望みがある。それを梅毒といわれた。そしてその梅毒については必ずしも私には自信がない」と言われるのです。数回外園に行っているし、自信がないから梅毒といわれたことは実に嬉しいというのです。しかも洪沢さんはインテリでしょう。それで「君、梅毒だよ」といわれてよろこばれた。それから稲田先生は「肝臓硬変症もあるかもしれん」といわれたのです。梅毒と西方あるのではないかというわけですが、突然大出血がきて亡くなられ、解剖したところが何と肝臓硬変症もあったのですよ。(さしえ、木下秀一郎)



談 対

推理小説を

江戸川乱歩

式場隆三郎

めぐって

33. 3. 26

丸善地下ビーコックにて



性に合う作家両氏

式場 乱歩さんが書きだされてから、ことしで何年になるのですか。

江戸川 もう三十四年ぐらいいかなあ。初めは大正十二年ですからね。だけれど通算するとあまり仕事していないですよ。ときどき休むのですね。このところ暫く休んでいられる。そういう期間がときどきあるからですね。

式場 しかし、一貫して探偵小説のことでしよう。

江戸川 探偵小説のために働いていますね。

式場 だれでも探偵小説となれば、乱歩とい

うふうに連想がわきますからね。

江戸川 まあ先輩だからね。

式場 大先輩だね。

江戸川 あなた、小酒井不木は御存じですか。

式場 個人的には知りません。

江戸川 草分けだけれどもね、早く死んでしまったから。

式場 やっぱ仕事をやったよかったですか。

江戸川 僕は勤め人もいろいろやったことがあるんです。早稲田の政治経済出ですからね。小説書くようになるまで六、七年勤め人やったのですよ。長いので一年間、短い



両氏(右)江戸川乱歩(左)式場隆三郎の両氏

のは半年ぐらいでよしてありますがね。なぜ読かないかという点、ちゃんと朝早く起きて時間までに出動して、規則的に働くということがどうしても長続きしないのですよ。僕の体質は夜でなければ駄目なんです。今日なんかでも十時に訪問しなければならぬところがあって非常に早起きして、さうすると今日一日頭がぼやぼやしているんです。夜になると頭がさえてくるのと、朝早く頭がさえるのと二つの型があるんじゃないですか。

式場 ぼくは朝型だね。

江戸川 それじゃ健康的だ。僕はそういうわけで、作家両氏が一番性に合うのですね。

式場 探偵小説を書く前に、普通の小説は書きませんでしたか。

江戸川 書きません。僕は文学青年出身ではないのですからね。作家になろうなんて

っとも思ってませんでしたからね。余校として書いたのを新青年に送ったら幸い通過して評判がよかった。けれども二年ぐらいは作家になる気がしませんでしたね。小酒井さんが、「もう専業になってもよかろう」と保証してくれたので、いよいよ決心して大阪から東京に出てきたのです。それからまあ運よくいっていますね。

式場 枚数にしてどのくらいでしょう、今まで書かれたものは。乱歩全集がでていられるども。

江戸川 わずかですよ、勘定してみたことはいないけれども。

式場 冊数にしたら、何冊くらいですか。

江戸川 ばらばらと組んだ普通の単行本なら三四十冊はありますが、この間春陽堂から出した二段組みの全巻では十六冊しかありません。そのほか子供のものがあります。それと随筆ですね。

式場 随筆は。

江戸川 随筆はほとんどありません。僕の名前が出ていても、実際はそうではないのがありますからね。

式場 しかし探偵小説は盛んになりましたね。これはあなたの大功績だね。

江戸川 今のところ随筆物の方が盛んなんですよ。その影響を受けて日本の作家のもの

も出ているけれども、もっとも大きな作家が出てこなければね。それを生み出すことが必要だと思うのですよ。

女性 の作家

式場 しかし、ぼつぼつ出かけたのではないのですか、作家。

江戸川 出かけたね。江戸川乱歩賞というので長編を毎年募集しているのですが、昨年は仁木悦子さんが入賞して、本にして出したら十萬冊出ました。こんなことはいまだかつて探偵物には例がないのです。

式場 普通の小説でも、十萬冊はなかなか大変ですね。あれはぼくも読んだけれども、作者は長続きしますか。

江戸川 いま短編を書いていきますよ。素直な文章だし、女だからこまかいところへ神経が行きとどいて充分見込みがありますね。

式場 見込みというのは、もっと発展していくのですか、あれぐらいいい味をつづけていくのですか。

江戸川 わかりませんが、短編の方も高合評判がいいのですよ。仁木さんのものはティン・ニーチャーの女性が、たいへん読んでいます。戦後、女性の読者がふえただすね。あらゆるものに女性がふえていますけれども、探偵物も女性読者が多くなっ

のですね。

式場 戦後のはやるものは、大い女性がブームを作ってくれているのだが、その一つですね。

江戸川 女性読者がふえてくれば、したがって女性の作者も出てくるだろうと思うのです。仁木さんもその一人ですね。アメリカイギリスには女性のえらい探偵作家がたくさんいますからね、日本もだんだんそうなると思うのです。

式場 案外の方が物の考え方が細かいし、推理には向くのでしょうか。「二十の扉」にも女のエキスパートが、一人二人いましたね。

江戸川 テレビの「私だけが知っている」に出ている有吉佐和子さんね、答え方がうまいですね。

式場 あのテレビは、面白いね。ほくも毎週見ているが、ただこれらはどうですか、小説の映画化ということも盛んだが、オリヴァル・レナリオのスリラー映画も大変はやっています。これがさかんになると読む方の探偵小説はどんなになりますか。

江戸川 今まではスリラー映画のうまい監督がありませんでしたよ。だがぼつぼつ出てきましたね。黒沢明さんなんかスリラーのできる人で、初期に作ったものにはいいス

リラーがあります。若い人の中でもヒッチコックみたいなものやりたいという人が出てきて、なかなかいい人がいます。井上梅次君なんかその一人ですね。スリラーは舶来物が相対するし、なかなか盛んですよ。

式場 そうですね、非常に盛んになりましたね。どうですか、これからああいうものが発達しますと、読むのはもどかしくなるとテレビや映画の方が探偵小説よりも普及度が高くなるのじゃないですかね。

江戸川 一般的にはそうですね。探偵小説は考えねばならぬが、みる方は手つとりばやいので、大衆はそっちへゆかないかな。

江戸川 しかし読むのは別の趣味だから、むしろすつと読みますね。

式場 ぼくのいうのは読む方が高級になってくるんじゃないか、ということなんです。探偵小説の方が高級になってきてあまり考えない読者が映画に行く。ミーちゃん、ハーちゃん、映画でということになりますね。

江戸川 そういう傾向ですね。

式場 医師と探偵小説
それから医師との関連ですが、医師は探偵小説家にはならぬなあ。

江戸川 いや医師は多いですよ。

世の中の行く過ぎたのだね(笑) 江戸川



(内藤明氏 撮影)

江戸川 世の中の方が行き過ぎたのだね(笑) つまり狂人的傾向というものは非常に

式場 日本では、林義、木々高太郎君がいるけれども……

江戸川 小酒井さんは昭和初期に相当書きましたよ。

式場 一人、二人は書いたけれども、もっと出ないかと思うのだがね。

江戸川 小酒井不木、木々高、楳八郎まだありますよ。

式場 しかし医師は、十万人いるのだからね。それにしても案外、探偵作家がいないのですよ。その事は低いような気がしませんね。

江戸川 探偵小説はある方だよ。純文学の人には医師で書いている人はないでしょう。

式場 いいや五、六人いるね。もつといるだろう。

江戸川 あなただって探偵小説を書いたでしょう。「新青年」「宝石」「セイル読物」などに十篇以上書いていますよ。それから小児科の医師の高田雄一郎氏がやっぱ十篇ぐらい書いています。それから正木不知氏さんは二十篇以上書いています。だから医師の探偵小説はあるのですよ。

式場 木々高太郎君なんか異例だね、よく読いたね。ぼくら忙しくて長く書いてもらえない。読者のなかから中絶されてしまわれらね。いちど新聞小説の話があったが、おそれをなして断りましたよ。

式場 一般化しているわけでしょう。

式場 そう、一般化してしまっていて、気遣いの方はそれほどではなくなりました。普及化したというかな。しかし探偵小説の要素は怪奇性というか、グロテスク、そういうものもあるでしょう。

江戸川 そういうものも一部だけれどもね。それが日本では主になってしまっていて、僕なんかそういうものに深入りしたので、仲間から非難されているのですよ。そういう特殊なものより普通にどこにでもいる人物を書いていくというのが、歓迎されている。

式場 松本清張君がそういうのを書いているのですよ。ああいう傾向はいいですね。

式場 しかし、一般の人にいわせると、ああいうのが推理小説なら今までもあるじゃないかというのですよ。

江戸川 短編のことをあなたいって書いていますよ。松本君は長編を書いているんですよ。これは本格物ですよ。「眼の鷹」と「点と線」ね。これは随分売れているし、好評なんです。

式場 英米ものと挿画のこと

式場 ぼくもよんだが、今まで探偵小説の概念でよむと満足しない。翻訳ものは売れているのですか。

江戸川 式場さんも自分で書くレンバの一人ですよ。

式場 大レンバだけれどもね。現に小説は二冊出した。ただ、種になる精神病がこの頃もうほかの方よりわかってしまいました。

式場 精神病学は進歩したけれども、精神病者の考え方怪奇性というものが、もう現実とか社会に遅れてしまっていますよ。

式場 変わったものもないし、何というか発展性がなくなりました。怪奇性とか、妄想とか、そういうものがどんどん進みかと思つたが、大体止ってしまっている。むしろ健康な人の考え方の方がずつと怪奇的であり、また妄想の力が強くなってしまった。

式場 普通の人がね。

式場 常人の変わった思考の方が強くなって、ほんとうの気遣いの方は、たじですよ。

式場 そう。たとえばね、妄想の話だけれども、誇大妄想なんというものは、このごろなくなりましたよ。本職の気遣いにはね。誇大妄想は少しは議会あたりにあるけれども、これも大したものではない。つまり誇大妄想患者は政治家のなかにはい

江戸川 翻訳の種類が多い。数が多いですね。

早川書房は月に七、八冊出すから、普通の人はこれ全部読むことはできませんね。しかし、あれで探偵読者を大いにふやした。

式場 売れるというのは、一つは西洋趣味というか、外国のものが、トリックも、ごまかしもきいて面白いということですかね。

江戸川 翻訳ものは、百年間の各国の作品の中から最大のもので選ばれるのですから、日本の作家が毎月書くものと比べたらあちらの方がすぐれているのは当たり前です。

式場 それと、アメリカの小説というものは三百ページか四百ページが普通でしょう。探偵小説の方は、どうですか。

江戸川 英米の原作は二百ページちょっとのことが多いですね。向うは短編を出す雑誌が多いでしょう。初めから本にするというのが多いですよ。その関係ですよ。日本では雑誌に発表した後で本にする場合が多いでしょう。向うにはそういうことはない。イヴニング・ポストなんか探偵小説のせてでも一篇だけでしょう。それも大家のものでなければ載せない。だから、日本では雑誌に書くのが主だけれども、向うは単行本でデビューするのが大部分です。それから向うでは男は疑問は働いていて、夜は酒を飲む。奥さんは家庭が電化されているから

暇があるのですよ。だから女性の読者が多い。日本も戦後はだんだんそういう傾向になって来ましたね。僕は、今探偵雑誌の「寶石」を編集しているのですがね。

式場 毎月読んでいますよ。あれは大変な努力でしょう。しかし、あなたが編集されてから、非常によくなりました。インテリが喜ぶようになってきた。

江戸川 私がやりだしてから部数はふえていますけれど、まだ十分ではない。探偵作家は「寶石」には嫌く書いてくれますが、外郎の人、純文壇の人なんかはそうはいかないから、今までより、金がかかるのですよ。新聞広告も出さなければならぬし、僕は財政の方もいろいろ心配しなければならぬ。広告とりまでやっているのですよ。

式場 はくもこの雑誌の広告までやっているのですよ。そこまでやらなければならぬのですね。

江戸川 これは顔でとるのでね。普通ならなかなか取れるものじゃない。

式場 こっちもそうですよ。五万以下の雑誌なんて問題にしないのですね。

江戸川 あなたはよく表紙に版画をお使いになりますよ。あれはいいですよ。

式場 この雑誌は美術的な要素を多分に入れたいのでね。挿画の問題ですが、いつもそ

う思うのだけれど、「寶石」はもっといい挿画家に描かせたらどうですか。

江戸川 まあ徐々によくして行きますよ。でも以前の「寶石」よりは挿画がよくなっているつもりですよ。

式場 もっといい絵描きに描かせるのもっと面白いと思うがね。

江戸川 もう少し売れてくれないとね。挿画料が思うように出せないのですよ。

式場 このごろ絵の方はシェールとか、アブストラクトが流行しているわけだが、そういう今の時勢と関連したもので何か……

江戸川 そういえばあなたの世話している山下清君。あれは全部振りつけるのでしょ。一枚描くのには大変だろうね、時間が。

式場 今までは挿絵の大作は二週間ぐらいですが、今はもっと早いんですよ。雑誌の表紙は小さいから一週間だね。ああいう技術は西洋にはなかったのです。いう紙を何重にも貼りこんでいく美術というものはありませんよ。つまり何重にも貼ることによって画面に深味をもたせるのですよ。

江戸川 指でやるのですか。

式場 ええ、爪できってね。はきみもピンセットも使わない。

江戸川 あれはちよっと画期的なものだね。

式場 そう、めったにあらわれない才能だね。いくらかやらせてみても、ああいう人間をどんどんとつくりあげるといふわけにはいかない。

江戸川 特殊のものだね。

式場 ええ、あの仕事だけはすばらしいけれども、山下はストーリーというものはわからないんだね。だから映画を見てもわからない。けれども「ラドン」はね、三べん見てやっと大体わかったといっていたが。

江戸川 面白いね。兵隊の位で人間の偉ろちをきめるでしょう。あなたはおそろく大元師だろうね。

式場 いや、案外そばにいますものは認めないからね。話らがうが、このごろは宇宙時代と騒いでいるくせに世の中が進行して迷信的になってしまったでしょう。

宇宙時代と迷信

江戸川 そう、これは両方とも世行的に存在する時代だね。宇宙時代になるほど不安は増すのですよ。人工衛星が戦争に使われなければいいけれども、これを使えば地球は全滅する、と思うと非常な不安だからね。

式場 鳥が盛んになり、新興宗教が盛んになり、心霊術が盛んになりね。心霊実験は見ましたか。

江戸川 長田幹彦さんのね、あの人は心霊実験に非常に熱心になって、あれを信じていたのですが、近ごろ信じなくなってきた。というのは霊媒のインチキが暴露されたことがあって、それから信じなくなってきたのですよ。

式場 あれにははくも初め興味を持ったけれども、何べん申しこんでも見せないのだ。来週来いといっておいて、都合が悪いということになってしまおうのですね。

江戸川 霊媒は実にはわがままで、僕は最初長田さんに誘われていったのですよ。僕が探偵作家というところからいけば、僕が内情にしてくれといわれていたのですが、女中はそれを知らないから、霊媒のいるところに行つて、「江戸川さんがいらっしやいました」といったのですよ。そしたら霊媒は今日はやらぬというのです。新聞記者や探偵小説家なんて、霊媒に嫌われるのですよ。悪霊が来たといつて、やらぬといいたしたので、僕は帰つたので、別に別室に待たせて、実験がはじまつて、部屋が暗くなつてから、そつとその部屋へはいって行つたけれども、霊媒は少しも知らないのですね。僕を感服しておきながら、少しも気づかないで実験をやっているのです。(笑)

長田さんもインチキが一度発見して、それ

から信用がおとろえたらしいですね。あなたも心霊術をごらんになっていないの。

式場 まだ見ていないのですよ。

江戸川 一べんは見てもいいね。

式場 一べん見たいけれどもね。やる人もみたいが、あれを信じる人の様子も観察したいね。科学者の科学を信じている人の中にも支持者がある。

江戸川 東大の工学部の電気専門の先生に一人いる。しかし真つ向から信じているわけではありませんよ。心霊現象というのは研究の価値がある。ひょつとしたら心霊的なものがあるかもしれないということでも科学的実験をやっているわけですね。

式場 なるほどね。ときにあなたは何か事件が起ると、犯人を見つけてくれとか、当ててくれとか、警視庁からではなく個人的に頼まれることはありますか。

江戸川 ほんとどないね

江戸川 ほんとどないね。この間東大の講師が行方不明になったでしょう、あの講師の関係者が知恵をかしてくれと僕のところに来られたことがあるのですよ。ところが僕は全然知らない人だし、手がかりというものが何もなかったのだ、はつきりした意見もいえなかったが、そういうことは時々ありますよ。

式場 僕らから見ると、あなたなんかのとこ

るには謎ときや難問の解明を頼みにゆく人があるのではないかと思つたが。

江戸川 直接聞きにくるというのはほとんどありませんよ。それより精神病者が来ますね。たえずラジオみたいに耳に何か聞えるという人がいるでしょう。遠くで自分の悪口をいわれていよみだいに思う、あれが精神病の初期ですね。そういうのがよく来るが、僕の話で治った人が一人いますよ。岡山県のお金の娘で僕の愛読者なんです。それで僕に会えば安心するから一べん会いたいというのでお父さんが連れてきた。この娘さんは電車に乗ると向う側の人が自分の悪口を囁いていると思ふ。恐追観念、被害妄想ですね。それで僕と話をすれば気が休まつて癒ると本人がいはるのですね。

式場 被害妄想は戦後の一つの現象で、やっぱり日本人はひどい目にあったから、だまされたいぞ、という気持ちが過敏になつていふ。被害妄想と劣等感の流行は敗戦日本の運命だと思ふのですよ。

江戸川 それは全般的で、相談にくるのほらよつと激しいやつですね。その娘さんに会つて僕はいろいろ質問したり、話したりしたけれども、帰つてからはほんとうに癒つたらしくて、お父さんからいろいろ物を送つてきましたよ。そういう幻聴というか、耳

式場 あまり利口すぎる人間はだめだと僕は思うな。

江戸川 この間僕の雑誌に、幸田文さんと座談会をやつた記事を書いたが、幸田露伴が大変な探偵小説好きだったのね。初耳だったよ。

式場 それや意外だね。今まで知られないことだし、ファンといえは吉田茂さんが捕物帳を読んでいるというが。

に何か聞えるというのが一番多いですね。式場 前売だね。しかしあなたは随分探偵小説のトリックを調べられて本まで出しておられるが、あれだけ知っていたら、これから何読んでも大抵強はわかつてしまつてつまらなくないですか。

江戸川 そうでもないですよ。作家というのは犯人当ては大体駄目なんです。作家の中にも勘のいいのがあります。ちよつと読んで犯人のわかる人がいますけれども、僕らわからない方が面白いですよ。わかつてしまつたらつまらない。

式場 僕もわからない方だね。

江戸川 ずっと読んでいって、最後にアッといわせられるのが、やっぱり愉快ですよ。僕はトリック表を作つたけれども、あれにないトリックはいくらでもありますよ。あれが出たあとで日本の作家が考へたトリックにも、いろいろ珍つてしまつたら自分では面白くなるんじゃないかと思ふがね。

江戸川 表をつくつても、忘れてしまつて覚えていないのだね。

式場 そういえば医者だつて、そうだね。みんな医者は医学のことを知っているかというところはいかない。うんと忘れていふ。必要にせまられて調べたら思い出したりし

江戸川 クロスワード、パズル、日本ではすたつてしまつたけれども、イギリスではいまだにやつていふね。

式場 大変なものだ。パスの中でも、電車の中でもどこでもやつていふ。

ますね。

江戸川 精神病者に探偵小説の好きな人いますね。

式場 それはありますよ。

江戸川 そうでしょうね。

式場 それと、子供までがこのごろ探偵小説を読むようになったね。しかも少年物でないのを読んでいるようだ。

江戸川 少年ものは手加減がしてあるけれども、大人ものはほんとうはよくないのだね。

式場 しかし面白いのだね。ラジオやテレビの推理番組だね。ヒチコックにしろ、「私だけが知っている」にしろ、子どももおそくまで起きてあれを見ているのだね。

江戸川 テレビには子供は夢中になるね。それにクイズがたいへんはやつていふ。あなたクイズに出ているでしょう。

式場 たびたび出されたが、得意ではないですよ。ほかは勘はきく方ではない。こつこつやる仕事の方が得意な方だからね。しかし渡辺幹一郎なんかラジオであるのほうまいね。けれども書かせてみると案外探偵小説は駄目だね。すこく悪用なくせにね。ああいうものは悪用だけでは駄目だつとつくつ

ただアメリカやイギリスという国は、よその国のものを余り翻訳しないから、われわれにはわからないけれど、あることはあるのですよ。

式場 豊かな国が盛んなら貧乏な国はどうですか。

江戸川 日本は貧乏だが、やっぱり貧富の差はあるから、物欲の犯罪は起る。したがつて、探偵小説の舞台はあるわけですね。

式場 東洋では、朝鮮とか、中国、フィリピンというところの探偵小説はどうですか。

江戸川 だめです。フィリピンはアメリカのものを読んでいふでしょう。インドではインテリは英語を読むから英文のものが流行している。一方インテリでない人たちのためにインド語で探偵小説を書いて出していますけれども効能は、支那も効能。とくに中共になってからは、そういうものは余り歓迎しないでしょうからね。

式場 ロシヤはどうですか。

江戸川 今はちよつとゆるやかになつたから出てきましたけれどもね。あとからやはりはじめたからやつぱり劣つていますね。

式場 どういうわけだろう。ロシアなんか。江戸川 スパイ小説はあるのですよ。ソ連国

家のために働くスパイ、そういうものはあるのですよ。日本の戦争中と同じですね。やっぱり、あれも全体主義だからね。今では探偵小説がだんだん出てきましたけれど、まだスパイ小説が多いですね。

式場 ドストエフスキーのものには、探偵小説的な要素のものもあるがね。

江戸川 あるけれどもね。ドストエフスキーは、このごろまた復活したようにだけれども、しばらく本も出なくて弾圧されていたのでしよう。

式場 そうね、ソ連でドストエフスキーは弾圧されていたってね。

江戸川 そんなふうでいて、そのくせロシアで一番読まれるものはディケンズやドイルですよ。シャロック・ホームズなんか大いに読まれている。

式場 私は今から三十年前のロシアを知っているが、そのころ行ったときにもモスクワで、一番はやっていた映画はアメリカのものだ。しかもロイドの喜劇。

江戸川 革命のあとでしょう。

式場 観衆が熱狂して足をばたばたさせて笑っていた。今ではアメリカなどの影をひそめたりが……またもどりますが日本ではこれからはもっと探偵作家は出ますか。

江戸川 出ると思います。個性の強い作家が

出てこなければ駄目ですね。そうするとまた一時代を画すると思うのですがね。

式場 そうすると仁木さんのような新人が出たことは画期的なものですかね。

江戸川 作品はかならずしも斬らしいものじゃないが、彼女自身の境遇に興味があるものだから、あんなに騒がれたのでしようね。

式場 そうだね、病身で動けないんだから。山下清の流行と一連のものだね。

江戸川 小学校にも行っていないのですね。子供のときにカリエスに罹って足が立たなくなりました。兄貴が僕の息子と同期の東大を出て心理学をやった人で、ある会社の課長をやっているけれど、それが仁木君の幼児のときから家庭教育をやった。仁木さんの字はきれいですよ。寝ていておむちで書くのだが、非常にきれいな字ですよ。文章も平易で、なかなかいいですね。

式場 どういう動機で書き出したのですか。

江戸川 好きなんです。童話と探偵小説を書いて、暇があるものだから方々に投書したのです。

式場 しかし寝ていたために社会経験というものも少いだけでしよう。

江戸川 ないのだけれども、それがよく出て

いるからえらいですよ。ほんとうに見たよ

うに書いてあるのですよ。書物の知識だと思うのですが、それがリアルに書いているのです。

式場 やっぱり才能があるのだね。実際に見たよりもそういうふうにして勉強したり、才能で見える方が詳しくわかるからね。実際をばやばや見ているわからぬ奴と、その場所に行つたこともないのに、行った以上に詳しく書ける人というからね。

猫のはなし

江戸川 あの「猫は知っていた」は病院に取材しているのですがね。まあ病人だからほんとうに経験したことがあるので、あんなによく書いているのだと思つていた。ところが入院なんかしていないのですよ。この間「猫は知っていた」が映画になるので大映が生れて初めての東京見物をさせたのですよ。映画も見ていない、テレビも見えていない、何も知らなかった。東京の町を知らないのですよ。それを初めて島耕二監督が連れて廻つたのですよ。

式場 島耕二君というの、猫が好きだからね。江戸川さん、猫はどうですか。

江戸川 僕は好きだけれども、家庭がそうでもないからね具合が悪い。

式場 女の人にも二つのタイプがあって、猛

ウエイキ島

太田千鶴夫

藍色の海は波頭をゆつくりと高く持ち上げ
そして白く砕けた。
海蛇は岸辺の小波にたわむれ
水浴の女たちの金髪が
透明な水しぶきの中を炎のように走つた。

ここはウエイキ島。
かつて日本の兵士たちの
血をむきんにのんだ
廃墟の砂は酷熱にうだり
爆音は爽快な風の渦巻をつくりながら
アメリカの若い兵士たちを運んで来た。
彼は遠く東洋の異境の守備につくのだ。
島の一面に咲きこぼれる
色とりどりの花は
激動する歴史の変転を語りつづけた。

烈に猫が好きで女と、大きらいなのと、猫だ。

江戸川 僕は犬よりも猫が好きだね。

式場 ほくは初めは猫が好きだったが、いまは犬の方が好きだね。

江戸川 犬は主人をよく覚えるしね。

式場 鳥君はシャム猫を飼っているそうだ。幾夕起子さんと、この間汽車で一緒に話をしてたんですよ。そうしたら、シャム猫というものは日本に三十四匹四十四匹しかないそうだね。仔がなかなかできない。一緒におくと何か中性みたいになつてしまつてお互いに魅力を感じなくなつてしまつてしまう。不思議なものだという話をしていましたよ。それで、ほかの猫に興味があるのかといつたら、それもあるのかないのかとに、仔の少い不思議なタイプだと話をしていたがね。

江戸川 相当たくさん飼っているのだから。式場 そうらしいね。しかし一番猫をたくさん飼っているのは、木村莊八君だろうね。いま十八匹か二十四匹が、あれはよた猫でも何でもいいのだ。大仏君の家のようなこつた猫なんかないようだね。

江戸川 この間、島耕二さんが仁木さんのを監督するので黒猫が入用になつたが、鳥さんと

募集したのですよ。新聞に載つたものだからたくさん来てね。猫は普通の電車に乗せられないので、一台借り切つて猫電車というのを動かしたのです。僕も番査員になつて行つたのですが、鳥さんが一匹ずつ抱いて連れて来た。一見すれば病気がないかあるかわからぬらしいね。

式場 西洋には、猫の雑誌があるのでね。鳥君はたしかその雑誌をもっているらしいよ。日本の猫と西洋の猫とはまづしつぱが違ふようだね。日本の猫は短かくてぼつとなつていて。

江戸川 あれは切るのが多いの。

式場 切らないでも短いのが多いらしいよ。江戸川 今度の映画には長いのが欲くてね。

式場 黒くつっぱの長いのか。もう一つ西洋では猫に芸をさせるのだね。日本では、ぼけるからといって囃すが、西洋には猫の曲芸があつて、いろいろやらせる。ぼくは昔ドイツでみた。輪を飛びこえたり、踊りはしないけれども作られるおりにとびまわる。小さな馬車を作つて鼠をたくさん乗せて、猫が引くというふうなことをやって見せるのだね。

江戸川 なるほどね。

(以下次号)